

副 本

令和2年度 第1回吉川市総合教育会議録

令和2年8月28日（金）

令和2年8月28日 令和2年度 第1回吉川市総合教育会議

開会の日時	令和2年8月28日 午後3時35分
閉会の日時	令和2年8月28日 午後5時00分
会議開催の場所	吉川市役所305会議室
<p>会議に出席した構成員の氏名</p> <p>吉川市長 中原 恵人</p> <p>吉川市教育委員会 教育長 戸張 利恵</p> <p>教育長職務代理者 中島 新太郎</p> <p>教育委員 小林 照男</p> <p>教育委員 鈴木 真理</p> <p>教育委員 荒井 一美</p>	
<p>構成員以外の出席した者の職・氏名</p> <p>○市長部局の出席者</p> <p>副市長 椎葉 祐司</p> <p>政策室長 野尻 宗一</p> <p>○教育委員会事務局の出席者</p> <p>副部長兼学校教育課長 馬場 重弘</p> <p>教育総務課長 石田 和親</p> <p>生涯学習課長 岩上 勉</p> <p>学校教育課学校支援担当主幹 兼少年センター所長 砂賀 正史</p>	
傍聴人 2人	
<p>会議に付議した事項</p> <p>(1) 新型コロナウイルス対策について</p>	

○石田教育総務課長 ただいまから令和2年度第1回吉川市総合教育会議を開会いたします。

傍聴人はいらっしゃいますか。

(傍聴人入場)

議事に入る前に、傍聴上の注意を申し上げます。受付でお配りしました傍聴要領をお読みいただき、遵守していただきたいと存じます。また傍聴要領に反する行為をした場合には退場していただくこととなりますのでご注意ください。それでは本日の会議録の署名委員を決めたいと存じます。「吉川市総合教育会議運営要綱第5条第3項」の規定により、中島教育長職務代理人、小林委員にお願いしたいと存じますが、よろしいでしょうか。

○石田教育総務課長 本日の協議事項は新型コロナウイルス対策についてについて市長と意見交換をしていただきます。会議時間は概ね1時間30分とさせていただきます。それでは市長から開会の言葉をいただきます。

○中原市長 皆さんこんにちは。大変お忙しい中お時間をいただき深く感謝申し上げます。例年ですと卒業式や入学式で皆さんとお会いする機会があり、様々なところで意見を交わすことができますが、なかなか皆さんとお会いする機会がなく私の口から様々な意見を直接伝えることができず大変申し訳なく思っています。

これまで事務局からは皆様のご意見をしっかり承っておりました。皆様からはスピード感をもって対応して頂いて構わないと伺っておりましたので、非常に心強くこの間様々な対策を進めることができました。荒井委員とは日頃から大変お世話になっておりましたが、今年初めてお会いしますが今後ともよろしくお願ひ致します。

9月議会が来週から始まりますが、小林委員の再任をお願いするなど今後も様々な教育行政に関する忌憚のないご意見をよろしくお願ひいたします。

事務局から様々な話を聞いていると思いますが、私や副市長、政策室長など執行部を含めてこれまでの教育行政に関する対応を今一度確認し、今後の在り方について共有し意見を伺い、更なる対応を進めていきたいと思ひます。

事務局の説明もコンパクトにし皆様の意見をしっかりと聞き議論をしていきたいと思ひます。本日はよろしくお願ひいたします。

○石田教育総務課長 ありがとうございます。それでは、これより進行につきましては中原市長にお願いしたいと思ひます。

○**中原市長** まずはこれまでの振り返りをさせて頂いてご意見があれば今後に活かしていきたいと思います。次に、今後の対応について説明をさせて頂き、ご意見を頂きたいと思いますよろしくお願いします。

○**馬場副部長兼学校教育課長**

【資料「新型コロナウイルス対策について」説明】

○**中原市長** 様々なことを展開させていただきました。まずは3ページから振り替えていきたいと思います。お弁当の配食についてですが、子育て支援課が発案した中で、虐待のリスクを考えお弁当を配食する中で各家庭へ目が行き届くよう始めさせていただきました。校長先生のラジオで出演ですがこれは広報担当と考え進めさせていただきました。南萌香選手のメッセージや図書館の開放など、生涯学習課や教育部の様々な部署と連携しながら子供達への対策を進めてきました。入学式や卒業式の開催についてもとても大変な判断でした。一番大切なのは市民一人一人、保護者一人一人の意見を丁寧に答えていこうと。本当に多くのメッセージが届きましたが、丁寧に対応することで、吉川市では保護者からの大きな反発などはなかったと感じています。教育部はしっかりと丁寧に対応できたのかと思います。皆様から見ていただいた中で振り返っていただきご意見があればいただきたいと思います。

○**小林教育委員** 学校が休校になるという報道が急にされて、報道によって初めて我々が知って対策をしなければいけないという状況になって、現場はパニック状態だったという風に認識しています。その状況の中でこの対応というのは、どこの部分が失敗だったということは全くございません。よくこの状況の中でこれだけの対応を吉川市は出来たということ委員として高く評価致しております。

一度目の緊急事態宣言より現在の方が感染者は多く、重症者数は低いとは思いますが、より危険が身近になっている状況の中で、また急遽休校の措置を取らなければならないという想定をした中で未来のことを申し上げたいと思いますが、休校中の学童保育はそのまま行った、学校も家に一人でいられない子を預かった決して間違いだったとは思いませんが、今感染が拡大している中で同じように行っているのかと。現在の方が感染は身近になっているので、この時は感染者が出ずに終わりましたが、今後も同じことをしても感染者が出た場合同じ対応ができなくなる、全体に大きな影響が出てしまうのではないのでしょうか。家庭には一人で絶対に置いておけない子供達がいると思います。次は慎重にやらないとその子供達を救う手段がなくなってしまうのではないのでしょうか。次の時には考えなければ

いけないと思います。私は学童を運営している中で、金曜日に報道があり月曜日から対応しなければいけないという中で、人員確保を週末二日間であまりにも緊急過ぎてパニックになったということ。また、こういった事態があるかもしれない。救済措置はいいですが、どこかで足を引っ張ることがないようにと、次回に向けて考えたほうがよろしいかと思えます。

○**中原市長** 本当に悩ましいところです。いくつかパターンがあったと思いますが、時間も無くとても大変でした。吉川市は若い保護者が多いまちですので。

○**椎葉副市長** 子供達の行き場がなくなるということは避けなくてはならないと思えました。

○**中原市長** 学童保育はかなり密でしたので、密を避けなければいけないのに密にならざる得なかったのもとても心配でした。教室を増やして受け入れたり支援員を増やしたり現実的ではありませんでした。

○**中島教育長職務代理者** 実際学童でみつの状態だったのではないかと思うんですが。

○**中原市長** 私も視察に行きましたが、人数は普段の1/3ぐらいでした。

○**椎葉副市長** 思ったよりくる子は少なかったと思います。

○**小林委員** 今回の対応は東日本大震災が参考になるかなと私は思っています。東日本大震災も金曜日に起きて月曜日に保育園がやれたところがありました。子供達の受け入れを当番制にして全ての保育園を開けろということではなくて、開けられるところは開けて他の保育園の子供たちを引き受けてくださいと。そこに何らかの支援を回しますと言うことだと思います。

次に事前に準備ができるとすれば、開ける小学校を当番制にして他の学校を引き受けて下さいと。なまりんバスを使用するとか、今回のスクールバスのような、この日はどこどこ小学校開ける、万が一その学校で感染者が出た場合は他の学校は大丈夫。職員もその学校に集約して教室で分散させるとか。吉川市の学校全体が駄目にならないように、リスク分散をさせて全体がダメにならないように。市内で2箇所や3箇所を分散して当番制にするような対応の方がやろうと思えばやれるという感覚があります。

資料の4ページ、5ページですが、学習が遅れたのかどうか、遅れたのであればどういう影響が出ているのか。休校になったのでその部分をどう取り返すのか。東日本大震災の時は三陸地方の小学校はおそらく半年ぐらいは学校が休校になっていると思います。学習についてどのような影響が出て、どのように取り替えしたのか。今短期的に取り返そうとし

ていますが実は日本には事例がありますので。この事例研究をすると最終学年は難しいですが、そこに取り戻せる方法があったのかもしれないと思います。休校というのは今回初めてなったという感覚ですが、日本には事例があったのだという風に捉えた方が宜しいかと思います。

I C Tを教育に活用する方法についてですが、世界的に見れば日本はまだまだ遅れていますので。遅れてしまったのは、I C Tを教育に持ち込むことへの抵抗感がある方がたくさんおられたので、今はむしろ積極的にやるべきだという社会的な雰囲気が変わったと、これはコロナにより起きた結果で、前に進めるべきだと思いますが、少し弊害が出ているところがあります。まずは発信する側で訓練がされていない。I C Tで発信する時に、政見放送のように一方的に語りかけているようなものと子供に全く響かない。広告代理店などが制作したしっかりしたものだと子供にも響くというように、発信する先生が勉強する機会を持たないと、ハード面が整って活用しようとしても子供達にはなかなか響かない。これが課題のひとつです。

もう一つは後で関係すると思いますが、ラジオで発信したり YouTube でメッセージを伝えたり、今後は授業をI C T技術により発信するなど進んでいく中で、コミュニケーションの方向性を考えなくてはならないと思います。子供達がZoom会議などの場で喧嘩ができるかということです。喧嘩はよくないことですが、喧嘩することで社会性を学ぶとか、授業ではないところで休み時間にドッジボールをするなどで仲良くなるなど、そういったコミュニケーションがあることによって友達同士の絆などが醸成されるのではないかと思います。先生が授業をオンラインでやることで、そういうような絆的な信頼関係がI C Tにより醸成されるかというのが次の課題。吉川市が先進的な取り組みとしてやるのであればI C Tの裏側も研究課題としてやることにより今後同じようなことが起きた場合にその部分を補完しながらできるのかなと思います。

○中島教育長職務代理者 これからの教育の課題を今おっしゃって頂いたと思います。吉川市の学校の休校及び開校については正しかったと思います。とても良い判断だったと思います。学校というところはまず安全安心、命を一番大事に考える場所だと思います。その基準で学校を休ませる、学校を開く。その判断は大変良かったと思います。保護者からの理解もされたなと感じています。

人とのつながりですが休校の時に担任と子供達がどう繋がるかということです。子供達は学校に全く来ませんので切れてしまう。担任が子供達とどのようにつながっていくかとい

うことです。それを考えていかないと子供達が学校との繋がりが切れてしまうと思います。休校で休んでいるところ時はそこを大事にしなければいけないと思います。子供達同士のつながり、人と人との繋がりが今後は薄くなる時代、薄くなる学校と感じています。今までは学校に来ると低学年の子供達はくっついていましたが、今はそれもできない。子供達はどうつながっていくのかがわからない。つながりの考え方がわからない。今子供たちが登校して勉強していますが、人間とのつながりをどう作っていくの、教員も大事な課題になるのかなと思います。

学習の保障ですが教育委員会でも話が出ましたが、3ヶ月の休校で子供たちの学習の差は出ています。ただ課題をやった子と、塾にも行って色々なことを学習した子と明らかに差が出ています。学校の課題すらやってこない子もいます。学校が再開してもこの子達は授業についていけないのです。これからもそういう子達が出てきます。残りの9ヶ月で1年文をやってもついていけないのです。能力の低い子達を個別に放課後集めて学習するとか。その子達への学習の保障をしなければなりません。小学校はまだいいですが、中学校になると荒れてしまいます。違う方向に行動が出てしまいます。どこかで子供たちにしっかりと学力を付けてあげないとその後の状況は大変なことになってしまいます。ついていけない子が一年前2年前に比べて増えています。その子達をどうやったらいいのか大変大切だと思っています。

○**中原市長** 休校中には登校日があって、保護者だけが来るというシステムになっていたと思いますが、担任とのコミュニケーションなどが休校中でもつながっていけるような今後良いのかどうか、あるいは今回の休校などで良い事例などがあったのか。

○**馬場副部長兼学校教育課長** 保護者からも学校に行かなければいけないのか。感染してしまうではないか。学校の方も子供と一緒に来てくれというのは強く言えなかったところはあります。中学校については登校日を設けて登校しましたが、保護者によってはなぜこの時期に一斉に学校に来させるのかと意見がありました。学校としては必ず来なくてはいけないということではなく、来られない子については連絡をするという形で進めていました。

○**中原市長** 小学校などで子供と一緒に来た保護者についても対応したと聞いています。そういった積み重ねをやっていくということが大切だと思います。能力に関するサポートについては今後何かやる予定はあるのですか。

○**馬場副部長兼学校教育課長** このような状態ではありましたが、自治体によっては 県の

学力状況調査を実施しないという自治体もありましたが、吉川市ではこういう時だからこそちゃんと実態を測っておきたいということで実施いたしました。その結果がこの後逃げてきますのでそれで確認をしていきたいと思います。各学校に調査がありまして実際どれくらい授業が進んでいるのかという形の調査を進めています。早い学校ではすでに遅れたぶんを取り戻していてすでに9月文の授業をやっている学校もあります。ご確認をしながら進めていきたいと思います。

○**中原市長** 今後、学習が遅れている子たちのバックアップについてもテーマとしていきましょう。

○**荒井委員** 説明を聞いてアイデアや素晴らしい取り組みを勧められていることに感心しました。家にいる子供たちが安心できるということが大事だと。授業の遅れやコミュニケーションが足りないとかあると思いますが、東日本大震災で被害のあった気仙沼市の大島小学校の校長先生と知り合いで聞いてみましたが、何ヶ月も休むことありませんでしたが、3月11日の時点ですでに授業は終わっていたということですが、そのため授業の遅れはなかったということです。実は子供の中には両親を亡くした、おじいちゃんやおばあちゃんを亡くした、家が無く体育館から学校へ通っている。そういう子供たちに対して一番大事にしたことは、個別の状況を知りその子に合ったケアをしていくということが大事。学校が安全安心ということが大事でそこが学力に繋がっていくと思っています。安心して学べる、安心して学校に行ける。子供達の不安を取り除いていく、そういったところのケアが私は必要じゃないかなと思います。こういう時こそ私は非認知能力を高めるべきだと思っています。学習の内容云々よりも最後まで諦めないでやっていこう、自分で計画を立てたことをしっかりやろう、相手を思いやる気持ちを持とう。そういうことを育てていくことでやる気が出てくると思います。授業も大事ですがその根底に集中してできる、子供達との関わりの中で培っていきながら授業をしていくということが大切だと感じています。授業の遅れた部分はどうしたのですかと聞いてみましたが、教えるべきことは確実に教えました、練習問題やそういったものは家庭学習にして、教師が教えるべき内容を中心に教えたということです。

コロナについてですが最初は生活様式について色々出ていっていませんでしたが、今はこうすることによりコロナが防げるとか色々あると思います。どうしたらコロナと一緒に生活して健康でいられるのかと言うそういう部分も考えていく必要があると思います。学校はどういう風に進めていけばいいのだろうと言うことが見えてくるのではないかと思います。

○**中原市長** 学校では先生方が心がけてくださっていると思いますが、個別の状況の把握やケアということ。まさに今、非認知能力を誰か見るタイミングだと。教育大綱により各先生方が勉強の遅れを取り戻すだけではなく考えていただければと思います。中島委員が自治会でラジオ体操をしていると思いますが、去年よりも子供たちが多く参加していると思いましたが、コロナで地域の関係など変わったところがありますか。

○**中島教育長職務代理者** 子供達は外に出ていないということでしょう。旅行にも行けていない。多分夏休みなのに家の中でじっとしているのではないかと考えています。外に出る機会が他になく子供達は参加してくれているのだと思います。普通の夏休みですと子供達はもう遊びに行っていますし。ラジオ体操をやるといってもあまり来ない。今年はみんな家の中にいるからだと思います。ちょうど外に出る機会があったので親御さんと一緒に出てきているという感じです。今年はたくさん来ました。

○**中原市長** 鈴木委員。保護者からどのような声が聞かれましたか。

○**鈴木委員** ほとんどの保護者は政府が混乱している中で吉川市の対応は良いのではないかとたくさん聞きました。ただ市の対策や政策以前に、保護者のコロナに対する感じ方の違いがすごい。敏感になっている方と、何とも思っていない保護者との差が激しくて、対策が足りないと思われる保護者の方と、そこまでやらなくてはいけないのかという保護者の意見が分かれてしまう。私の職場に来るお客様の方達もマスクをしていない方もいれば、手袋をしたり自分で消毒を持っていたり差があります。対応について複数の案を立てておかないといけないのかなど。完璧ということはないと思います。大変だとは思いますが1案だけでなく2案3案あればいいのかと思います。学力に関しても家庭学習をととてもたくさんやる家庭と放置している家庭ではものすごい差が出ていると思います。保護者の方々は仕事をされている方も多くいるので、子供の意思に任せてしまっているということはあると思いますが、できないことにより不登校になってしまうとか、荒れてしまうということになりかねないのでフォローはして頂きたいと思っています。

○**中原市長** 不登校の話と皆さんの感覚でばらつきがあると言う2点出ましたので、先ほど定例記者会見がありまして記者の方から他の地域で子供たちが不安定になっている事例があると。自分は陽性にはなっていないが、もし風邪を引いて検査をして陽性になった時に学校が休校になってしまうのではないかと。学校に行けなくなってしまうのではないかと不安に思っている。保護者が学校で陽性者が出た場合の対応をそれぞれバラバラなイメージを持っているのではないかと。学校は子供たちに積極的に検査を受けても大丈夫だ

と。プライバシーはちゃんと守られているということをお子に伝える方がいいのではないかとアドバイスを記者さんからいただきました。教育長の意見を聞かせてください。

○戸張教育長 臨時休校の時とは今は違うという認識でいます。コロナに対する不安ですが、子供達は漠然とした不安を持っていて、もしかして自分が、家族がという不安を持っていて、そういうことに対してとても強い不安感を持っているという話がありました。まずはコロナに対する不安や様々なものに対して、しっかりとした発達段階に応じた指導をしていく必要があるのだろうと思っています。正しく恐れるということがありましたけども、子供達にも分かりやすく不安はないのだよということを具体的に指導していく必要があると思っています。それについてはガイドラインなどで示しながら、また校長先生にも校長会などを通じて周知して、具体的な指導をお願いしたいと思っています。少年センターでは様々な相談の門戸を広げていて、メニューとしてコロナ対策などの不安メニューは今のところありませんが、そういったメニューも増やしまして保護者の相談もできる、子供達も相談できるということを周知していきたいと話しました。保護者の方も様々な意見の方がいらっしゃいますので、それについては柔軟に構えて個別に対応し丁寧にやっていきたいと思っています。

○中原市長 コロナの情報は子供や保護者にしっかりと伝えて不安感をとると言うことをお願いしたいと思います。それでは次の今後の対応についてとさせていただきます。事務局お願いします。

○馬場副部長兼学校教育課長、石田教育総務課長

【資料「新型コロナウイルス対策について」説明】

○中原市長 吉川市は運が良く、エアコンの設置やトイレの改修、タブレットの導入などインフラについては非常にタイミングが良いと。できない子がいて、隣にいるできる子が教えながら少しずつ勉強していくというふうには、遠距離でタブレットだけで教えていただいても学ぶこともできないし、コミュニケーションも取れないと非常に感じています。このコミュニケーションをどう埋めてICTを使っていくかということ研究しながら吉川市らしい展開を進めてほしいと思っています。不登校の子どもたちへの支援の力を入れてやっていこうと言うことで、アウトリーチ事業など少し形が見えたかなという時にコロナが来たので、停滞をしている状況だと思っています。コロナと一緒に生活していく中で、どう

アウトリーチで不登校の子たちを支援していくのかということの研究を進めてください。今後の展開で皆さんから意見があればお願いいたします。

○小林委員 これまでの説明で吉川市がやってきたことというのは素晴らしい取り組みだったということを高く評価できると考えています。今後に向けて色々な対策を進めている上で大変な作業だということは十分理解していますし、国や様々なところから出てくる情報が日々変わってくる中で対応マニュアルも日々変わっています。今出ている対策が最終形ではなく、臨機応変に出てきたもので対応していただきたいと思います。私はそれに対して異議を申すことはありません。リアルタイムで積極的に対応を行ってください。自信を持って対応して頂きたいと思っています。市長もおりますのでお願いですが、緊急事態宣言でしたね、私は生まれてから初めて聞いた言葉で何をするのか戸惑いを覚えて、何が起きるのか誰の指示に従わなければいけないのか、大きな戸惑いでした。

その中で希望の光となるのがリーダーの発言決断でした。過去にない初めての経験の時に、誰かが大きな声で言うていただくというのは非常に安心感を覚えました。おそらく緊急事態宣言から報道等を見ている、はっきりと決断してこれから先もそうですが、何かあった時に即時的に決断して、それが大変厳しい決断だとしてもしなくてはいけないようなこととか、思い切った決断をしなくてはいけないことはあるとは思いますが、是非やっていただきたいと。厳しい決断だったとしても、判断基準については安心安全というキーワードをベースにして、その決断はすぐしていただいて、我々は全面的に指示をしたいと考えています。吉川市民の安心安全を保証することになると思うので。会議に諮るということではなく、緊急事態ですので過去に事例がありませんので思い切ったことをしていただきたいと思います。クーラー、トイレ、タブレットなど先見性があったことを証明していますし、今までの判断も決して間違っていないので、引き続きやっていただいてかまわないと思っています。

判断した内容は積極的にマスコミに出していただくべきだと思います。例えばクーラーやタブレット、また、これからのコロナに対する対応など我々の安心安全を守るための判断をした場合は積極的に広報をすること。積極的に今まで以上に発信してください。結果市民は戸惑っているわけですので安心感を与えることができると思います。さらに、現在コロナで危険だと思われるところからそうではないところへ移動が実際に始まっています。ここで積極的に吉川市は安全である。教育については安全を確保しながらタブレット等を他の市にはない先進的な取り組みをしている。市の安全を積極的に広報することで市民の

安心安全を高めるとともに、コロナで不安に思っている他の子の方達が吉川市なら安全だから吉川市へ引っ越そうという、安全安心を求めている方達の受け皿になり得るということもあるのではないかと思います。

○**中原市長** この数ヶ月、教育長が子供達の安全安心を守るということが一番だということが大きな軸でした。さらに市民の安全安心から色々な事を組み立てようと、危機管理、福祉、保健などを横に並べて最終的に決めさせていただきました。今後もその軸をずらさないでスピード感をもってやっていきたいと思っています。総合教育会議をこれまで開かなかったことはどうだったのかなと僕は思っています。次は皆さんの意見を頂きながら、スピード感を落とさずに進めていければなと思っています。その点は配慮していきたいなと思っています。

広報に関しましてはかなり一生懸命出しております。市民はいろいろ見ておりますので、他市を見ながら比較し判断しているところもありますので緊張感をもってしっかり進めていきたいと思っています。

○**中島教育長職務代理者** 的確に判断していたと思っています。学校は安全安心な所だと思っています。私もこのやり方は支持しています。ぜひこれからも進めていただければと思います。ICTの課題についてですが先生の指導力にばらつきがあることが問題だと思います。今後、ICT教育に関する総合教育会議がまた開催されるということで、またゆっくり話し合う必要があると思いますが課題だと思っています。

コロナの関係で誹謗、中傷、いじめ。子供がなくても家族がコロナになったとか、お父さんの会社で感染者が出たとか、保護者の間で広まってしまいます。お母さんが勤めている病院で出たとか。そういうことが心配されます。SNSだとかで広まってしまうとすぐに広まってしまいます。そういったことが一番心配しています。

○**中原市長** 僕は出すべき情報は出さなければいけないと思っています。どこかで感染者が出たらしいなど一番尾ひれがつきますので、対応を明確に行政が発信することで、ある程度広がりや抑えられるのかなと思っています。休んだ子がいれば認識してしまうので、積極的に出せる情報は出していきたいと、コントロールしていきたいと思っています。

○**荒井委員** 吉川市の取り組みはこれまでもこれからも素晴らしいものだと思っています。特に臨時休業対策会議設置について大変素晴らしいと思います。家庭で昼夜逆転しているとか、家庭教育など基本的な生活習慣の部分にもメスを入れた方がいいのかなと思っています。行政と学校が両輪で子供を迎えていくというのが良いのではないかと思います。それぞれ

れの分野で今できることを最大限にやっていくということが大事だと思っています。

○鈴木委員 一番心配しているところは、今は感染者が出ていないがこれからも絶対出ないとは言えません。感染者が出た時の犯人探しではありませんが、周りでもそうですが、私は犯人探しはやめようよと言っています。しかし、言える人と言えない人がいますので、都内で働いている保護者の家は感染するリスクは上がりますので、その辺のケアについて学校が指導し、どうするかということ突き詰めて欲しいところと、学校の規模が市内でも違うので、旭小学校と美南小学校では児童数が全然違うので、できることが違ってくると思いますが、学校のガイドライン的なものは統一だと思います。ソーシャルディスタンスが取れるところは歌を歌ってもいいのではないかという気がするので、学校単位でできることについて指示してもらえれば学校もやりやすいのではないのでしょうか。悲しかったのは小学校1年生がまだ学校の校歌が歌えないということ言われて、教育大綱の郷土を愛しというところにも繋がってくるので、そういったことができないのがすごく寂しいなど。うまく感染予防をしながらできることをするというのをメインにおいて、今後は対策して頂ければと保護者としては助かるなと思います。

○中原市長 教育部としては平等にというところが難しいところではありますが、今回のコロナの対応は校長先生が独自に判断されて、それぞれの学校でできることをやっているのを見て指導してほしいなと思います。ICTの活用の部分は次回会議がありますので、コミュニケーションの件など返答できるように組み立てていきたいと思っています。

最後にバスについて話をさせていただきます。今回スクールバスを出させていただきました。僕は市長になった時から旭・三輪野江の子供達が夜遅く帰る時に防犯の面で多くの保護者の皆さんに心配の声を頂いています。今回暑い夏の中で1時間以上かけて通ってくるというのを見て、4月から通っていなかったのが低学年は体力がないので、生命に影響するものではないかと言うことでスクールバスを出そうと言うことになりました。しかし全ての児童を毎日載せるとなると経費の面ですぐには決断できませんでした。今回は学校から2kmで切りました。今後は、もっと遠い子供達限定で少し試しながら、期間も冬の暗くなる放課後とかに区切りながら少し実験しながら市民の皆さんに納得の頂ける、子供たちの安全を守れる形で展開をしていきたいと思っています。そのあたりも皆さんに意見を聞きながら構築していきたいと思っていますので是非宜しくお願いします。

皆様から意見を沢山頂いたので今後の予算編成にしっかりと反映して行きたいと思っています。ありがとうございました。

○石田教育総務課長 それでは以上をもちまして、令和2年度第1回吉川市総合教育会議を閉会といたします。ありがとうございました。

令和2年8月28日 令和2年度 第1回吉川市総合教育会議

吉川市総合教育会議要綱第5条第3項の規定により署名する。

令和2年10月5日

教育長職務代理者 中島 新太郎

教育委員 小林 照男